

【企画展】 令和3年度浜松市教育文化奨励賞受賞

『古典文学研究家 松平和久氏所蔵品展』 開催中



3月1日から企画展【令和3年度浜松市教育文化奨励賞受賞 古典文学研究家松平和久氏所蔵品展】が始まりました。昭和8年静岡市で生まれた松平氏は幼少期を東京武蔵野市で過ごしたあと、下田北高校(現下田高校)・東京教育大学卒業後、浜松市立高校に国語科の教諭として赴任、その後、浜松北高校や磐田南高校で教鞭を執り、静岡県立図書館勤務のあと、磐田南高校の教頭で退職します。そして、浜松短期大学の助教授や浜松学院大学の講師として、多くの学生を育ててきました。

また、松平氏は古典文学研究家として特に相生垣瓜人や賀茂真淵の研究を行い、俳誌『海坂』や『遠江』などにも多くの論文を書いています。

『浜松市民文芸』の選者も永く務め、浜松文芸館では「源氏物語」・「万葉集」・「古今和歌集」と三つの講座を受け持ち、古典文学を身近なものとして、そのおもしろさや楽しさを広く市民の皆様にお伝えしています。



「浜松市民文芸 第67集」へのご投稿ありがとうございました



まだまだコロナが収まりません。創作活動が制限された一年でしたが、「浜松市民文芸 第67集」は応募作品総数が9部門で2211点と昨年度とほぼ同じでしたが、投稿者は延べ642名で大幅に増加しました。浜松市では文芸活動に取り組む若い世代は確実に育っています。特に、定型俳句は15歳から99歳の方までの投稿があり、本当に幅広い年齢の方に愛されている『浜松市民文芸』です。

松平氏の『浜松市民文芸48号』選評にはこんな記載がありましたので紹介します。

「もし、あなたが、自分の文章の読み手を求めるのなら、まず、他の人の文章の読み手になってほしい。子どもの頃によく読んでいたという記憶をお持ちの人は多いと思う。過去のことは捨てて、いま、大人目で、大人心で、できることなら自分が生まれ変わることを期待して、丁寧に、時間をかけて、他の人の文章を読んでもらえないだろうか。盛られている情報を捉えるためだけでなく、心に残る文章の書き手が、どんな言葉を選んでいるか知るために。詩でも、短歌でも、俳句でも、童話でも、小説でも、随筆でも、読むものは何でもいい。」

「浜松市民文芸第68集」の作品受付は9月20日からです。お待ちしております。